



東地中海地域ニュース

イスラエル：中東和平国際会議

(8月2日付現地報道)

ブッシュ米大統領が提唱した今秋の「中東和平国際会議」開催に関するサ우드・サウジアラビア外相の発言に対する反応(要旨)

1. イスラエル側の反応

- (1) 「ライス米務長官から『国際会議』の招待状を受け取れば、(出席を)真剣に検討する」との1日のサ우드・サウジ外相の発言に対し、イスラエル首相府及び外務省は、サウジが「国際会議」に参加する可能性について懐疑的な見方を示している。
- (2) サウジは、米国を通してイスラエルに対し「中東和平国際会議」において、国境・エルサレム・難民帰還の3つの中心的議題を論議することに合意するよう要求している。
- (3) イスラエル政府高官は1日、「サウジは、会議に出席することで、ただ新聞の写真を飾るのではなく、具体的な成果を得たいと望んでいる。オルメルト首相及びリブニ外相は、過去に何度もアラブ側指導者と真剣に協議することに関心があると述べたが、中心議題はパレスチナ側との交渉で議論されるべきであり、解決を困難にする国際的な議論に発展させるべきでない」と述べた。
- (4) 又、別の政府高官は、「占領地での情勢が安定化し、イスラエルが、PAが和平を望んでいる穏健派の手にあるとの確証を得るまで、中心的議論に関する協議は行われぬ」と述べた。そして、首相府及び外務省筋も、現段階では中心的議題に関する協議は行われぬことを強調した。リブニ外相もライス米務長官との会談後、「サウジの声明は心強いものである」としつつも、アラブ諸国が「イスラエルとパレスチナとの交渉結果を指図すべきではない」と指摘した。

2. 論説(「ハアレツ」紙)

- (1) 中東では、偶然是稀であるが、プレゼント交換はありふれている。従って、米国がサウジに対し、「戦略均衡を守るために」途方もない200億ドルもの武器取引を行うと声明した数日後に、サウジが今秋の「中東和平国際会議」に参加する声明を発したのは驚くべきことではない。
- (2) サウジ代表団がイスラエルの隣に座る「国際会議」に参加することは、イスラエルから見れば重要だが、初めてのことでない。1991年のマドリード和平会議でも、今日のイスラエル・サウジ関係で主要な役割を担っているとされるバンダル王子が突如参加した。
- (3) サウジによる「国際会議」への参加は、アラブ和平イニシアティブにも関連するため、重要な意義を持つが、サウジの参加はイスラエル・パレスチナとの直接交渉に代わるものではない。パレスチナとの直接交渉、そして、シリアとの和平交渉の進展なしには、ゴラン高原からの撤退を条件に含むサウジ和平イニシアティブには何の意味もない。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799